

静岡がん会議

2023

超高齢社会に備えて
～高齢者がん医療とケア・地域のあり方～

令和6年3月2日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催

静岡県

静岡がんセンター

(公財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター

開催趣旨

静岡県の高齢化率(65歳以上人口の割合)は30.4%に達し、高齢者のがん医療とがん対策、高齢者が安心して暮らすことができるまちづくりの重要性は一層増えています。

静岡がん会議2023は、「超高齢社会に備えて～高齢者がん医療とケア・地域のあり方～」をテーマとして開催します。高齢者のがん医療においては、静岡がんセンターが開院以来大切にしてきた「患者さんを支える」取り組みが重要です。また、ファルマバレープロジェクトでは、高齢者が医療、介護、福祉などの面で安心を実感できる「医療田園都市構想」を推進しています。4年ぶりに対面開催となる本会議は、これらの取り組みについて議論を深め、高齢者のがん医療・がん対策の進歩と医療田園都市構想の実現につなげていくことを目的に開催します。



静岡県立静岡がんセンター 総長 上坂 克彦

プログラム

静岡がん会議2023 | 令和6年3月2日(土) 静岡がんセンター研究所しおさいホール

テーマ： 超高齢社会に備えて～高齢者がん医療とケア・地域のあり方～

10:30	主催者挨拶	川勝 平太 (静岡県知事)
10:40	実行委員長挨拶	上坂 克彦 (静岡県立静岡がんセンター 総長)
10:50	基調講演1	がんと高齢化がもたらす課題への取組 ～第4期がん対策推進基本計画を踏まえて～ 西嶋 康浩 (厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課課長)
11:20	基調講演2	高齢者がん診療ガイドライン2022作成の経験から 石黒 洋 (埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科教授(副診療部長))
11:50	昼食/休憩 (60分)	
	第1部：高齢者のがん治療とサバイバー支援	
12:50	講演1	高齢者にも安全ながん外科治療の開発 寺島 雅典 (静岡県立静岡がんセンター 副院長(百外科))
13:05	講演2	高齢者の生活を支えるがん内科治療 内藤 立暁 (静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科医長)
13:20	講演3	高齢者のがん治療におけるスクリーニングと患者支援 福崎 真実 (静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター 外来患者支援室副看護師長)
13:35	休憩 (5分)	
13:40	講演4	がんとの共生 がんになってもその人らしく ～支持療法・アピアランスケアのすすめ～ 中島 和子 (静岡県立静岡がんセンター 副看護部長 兼 患者家族支援センター長)
13:55	講演5	高齢者のがん治療におけるリハビリテーション診療の役割 ～Exercise oncology とサバイバー支援 辻 哲也 (慶応義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室教授)
14:25	第1部 質疑応答(10分)/休憩 (10分)	
	第2部：ファルマバレープロジェクトが進める高齢者の理想郷づくり	
14:45	基調講演3	医療田園都市構想～概要と取り組み～ 山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 名誉総長)
15:15	講演6	技術が描く未来の自立した生活 ～自立のための3歩の住まい～ 中島 優子 (リナソニック(株)エレクトリックワークス社 マーケティング本部 アカ운ト営業部 公需営業推進部 主務)
15:35	休憩 (10分)	
15:45	講演7	医療田園都市構想の実現に向けた三島市の取り組み 豊岡 武士 (三島市長)
16:05	第2部 質疑応答 (10分)	
16:15	閉会挨拶	上坂 克彦 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

*講演のテーマにつきましては、変更する場合があります。ご了承ください。

基調講演1

がんと高齢化がもたらす課題への取組 ～第4期がん対策推進基本計画を踏まえて～

講師

西嶋 康浩（厚生労働省 健康・生活衛生局がん・疾病対策課課長）



経歴・研究活動等

2002.3	山口大学医学部卒業
2002.4	臨床研修
2003.10	厚生労働省入省
2009.8	国立循環器病センター
2012.8	厚生労働省健康局疾病対策課長補佐
2015.10	厚生労働省老健局老人保健課長補佐
2018.8	厚生労働省大臣官房厚生科学課主任科学技術調整官
2020.8	岡山県保健福祉部長
2022.7	厚生労働省健康局移植医療対策推進室長
2023.5	現職

政府においては、令和5年3月に閣議決定された「第4期がん対策推進基本計画」では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標とし、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の3本の柱に沿った総合的ながん対策を推進することとしている。

本講演においては、がんのマジョリティーを占める高齢者のがんを中心に厚生労働省の取組を紹介するとともに、課題や今後の方向性について説明する。

第1部：高齢者のがん

講演1

高齢者にも安全ながん外科治療の開発

講師

寺島 雅典（静岡県立静岡がんセンター副院長〈胃外科〉）



経歴・研究活動等

1983.3	岩手医科大学医学部卒業
1987.3	同大学院修了
1992.1	岩手医科大学第1外科助手
1994.6	岩手医科大学第1外科講師
1994.6	ハーバード大学ダナファーバー癌研究所留学
1995.8	岩手医科大学第1外科講師
2002.4	福島県立医科大学第1外科助教授
2007.10	福島県立医科大学付属病院教授
2008.4	静岡県立静岡がんセンター胃外科部長
2020.4	静岡県立静岡がんセンター副院長

高齢者においては身体機能が低下している上に、様々な併存症を有しているため、患者への負担（侵襲）が大きき外科治療においては特に留意が必要である。より侵襲が少ない腹腔鏡手術やロボット手術などの低侵襲手術の導入や、術術期の管理により術後合併症の発生率を減少させることが可能である。高齢者に特有の術後肺炎やせん妄を予防する試みとして、術前からスクリーニングと多職種による介入を行って支援する高齢者包括ケアプログラムについて紹介する。

講演2

高齢者の生活を支えるがん内科治療

講師

内藤 立暁（静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科医長）



経歴・研究活動等

1997	浜松医科大学卒業
1997	浜松医科大学医学部第二内科
1998	磐田市立総合病院 呼吸器内科
2000	浜松労災病院 呼吸器内科
2002	磐田市立総合病院 呼吸器内科
2007	浜松医科大学医学部大学院修了
2007	浜松医科大学医学部第二内科
2008	浜松医科大学医学部腫瘍センター
2008	静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科（現職）
2022	聖路加国際大学大学院看護学研究科 臨床教授（兼任）

人口の高齢化とがん治療の進歩とともに、「がんと共に生きる高齢者」が増加している。そのため、がんの進展を抑える医療だけでなく、宿主側をサポートする支持医療の重要性が増している。支持医療の目的は、がんや治療によって障害されうる、栄養状態、身体そして神経機能を温存し、自立した質の高い生活を提供する事である。特に本講演の中では、進行がんを有し、化学療法を受ける高齢者に対する、多職種医療（栄養療法、運動療法、薬物療法）の開発について紹介する。

基調講演2

高齢者がん診療ガイドライン2022作成の経験から

講師

石黒 洋 (埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科教授〈副診療部長〉)



経歴・研究活動等

1991.3	金沢大学医学部医学科卒業
1993.7	ニューヨーク・ベシスラエル病院 一般内科臨床研修
1996.7	ニューヨーク大学病院 臨床腫瘍学/血液学専門臨床研修
1999.11	千葉西総合病院臨床腫瘍科/血液科部長
2001.4	千葉大学大学院医学研究科病態病理学講座 大学院生
2005.4	京都大学医学部附属病院・外来化学療法部 特任助教
2007.11	京都大学医学部附属病院・外来がん診療部 特定講師(がんプロ)
2014.11	京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座 特定准教授
2017.7	国際医療福祉大学医学部 臨床腫瘍科 教授
2020.10	埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 教授・副診療部長
受賞歴	東京海上N Program Scholarship Award 日米医学医療交流財団研修助成(フェローシップ) American College of Physician, Evergreen Award

がん患者の高齢化が進む本邦において、高齢がん患者における診療・ケアをどのように進めるかは差し迫った課題にも関わらず、エビデンスすら乏しいことが明確になった。医療制度における構造的な問題や予防医療への対策など取り組むべき課題も多い。高齢者がん診療ガイドライン2022作成の過程と見えた課題およびガイドラインの概要について紹介する。本ガイドラインを基盤として高齢がん患者の診療がより充実したものになっていくことを期待する。

治療とサバイバー支援

講演3

高齢者のがん治療におけるスクリーニングと患者支援

講師

福崎 真実 (静岡県立静岡がんセンター患者家族支援センター外来患者支援室副看護師長)



経歴・研究活動等

2010.3	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 看護学専修がん看護CNSコース修了
2010.4	静岡がんセンター入職
2022.3	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 後期博士課程修了

当院は初診時から全患者を対象に、悩み・負担・苦痛のスクリーニングを実施し、患者と家族の状況に応じた支援を行っている。また、75歳以上の高齢週術期患者には入院前スクリーニングとして、多職種で身体機能評価と支援を行い、早期回復、早期退院を目指している。今回は、これまでのスクリーニング結果から見えてきた高齢がん患者の特徴を報告し、今後のスクリーニングならびに支援体制への展望を報告する。

講演4

がんとの共生 がんになってもその人らしく ～支持療法・アピランスケアのすすめ～

講師

中島 和子 (静岡県立静岡がんセンター副看護部長 兼 患者家族支援センター長)



経歴・研究活動等

1988.4	国立療養所兵庫中央病院 勤務
1991.9	千葉県がんセンター勤務
2002.4	静岡県立静岡がんセンター病棟勤務
2010.6	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程
～2015.3	がん化学療法看護分野教員
2015.4	通院治療センター 看護師長
2016.4	化学療法・支持療法センター 看護師長
2019.4	血液・幹細胞移植科 看護師長
2022.4	副看護部長
2023.4	患者家族支援センター長兼任
資格	
2002.8	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師認定

近年、がん治療・支持療法の進歩によって、治療の場が外来中心となり、また、生存率の上昇(5年相対生存率)により、外来通院をしている患者さんが増加しています。そんな中で、がん治療に伴う外見変化が生じると、「今までの自分と違うイメージ」に自信が奪われたり、人と会うことを避けたいことにつながる場合があります。年齢を問わずアピランスケアは、外見を整えるだけではなく、患者さんと医療者がともに「自分らしさ」や「人との関わり方」を一緒に考え、人と社会をつなぐ支援です。

第1部：高齢者のがん治療とサバイバー支援

講演5

高齢者のがん治療におけるリハビリテーション診療の役割 ～Exercise oncologyとサバイバー支援

講師

辻 哲也（慶応義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室教授）



経歴・研究活動等

1990	慶應義塾大学医学部卒業
1990	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室研修医
1992	同教室専修医
1993	国立東埼玉病院
1996	埼玉県総合リハビリテーションセンター
1998	慶應義塾大学病院リハビリテーション科医長
2000	英国ロンドン大学(UCL)国立神経研究所リサーチフェロー
2002	静岡県立静岡がんセンターリハビリテーション科 部長
2005	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 専任講師
2009	慶應義塾大学病院リハビリテーション科 診療副部長
2010	慶應義塾大学医学部腫瘍センターリハビリテーション部門 部門長
2012	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 准教授
2020	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 教授・診療部長・教室主任
2022	慶應義塾大学病院リンパ浮腫診療センターセンター長(兼任)

受賞歴

1999.10	慶應医学会三四会賞
2005.6	日本リハビリテーション医学会論文賞 優秀賞
2006.6	日本リハビリテーション医学会論文賞 優秀賞
2007.6	日本リハビリテーション医学会論文賞 奨励賞
2010.4	第21回理学療法ジャーナル賞
2011.10	慶應医学会三四会奨励賞
2016.9	作業療法士協会設立50周年記念式典 功労賞
2020.8	理学療法科学学会 優秀賞
2022.4	日本緩和医療学会 査読功労賞

高齢者では、特有のさまざまな病態(いわゆる老年症候群)を呈し、身体機能や日常生活活動(ADL)が低下しやすい。高齢がん患者は、ベースとなる生活機能が多様な集団であり、がん以外の慢性疾患が併存し、さらには、社会的問題が内在している場合も多く、治療戦略が複雑化する可能性がある。従って、がんと診断された時から原病のがんだけでなく、併存疾患や身体機能および精神心理的、社会的・環境的状况についてアセスメントを行い、支持・緩和医療を同時進行で実施し集学的チームでケアに取り組む必要がある。

本講演では、超高齢社会の到来に向けて、高齢者のがん診療におけるリハビリテーション診療の役割について、Exercise oncologyとサバイバー支援をキーワードに、お話しする。

第2部：ファルマバレープロジェクトが進める 高齢者の理想郷づくり

基調講演3

医療田園都市構想～概要と取り組み～

講師

山口 建（静岡県立静岡がんセンター名誉総長）



経歴・研究活動等

1974	慶應義塾大学医学部卒業
1976	国立がんセンター研究所内分泌部研究員
1999	国立がんセンター(現・国立がん研究センター)研究所 副所長
1999	宮内庁御用掛(併任、2005年まで)
2000	世界がん研究機構(IARC)科学評価委員会委員(2004年まで)
2002	静岡県立静岡がんセンター総長(兼)研究所長(兼) 疾病管理センター長、静岡県理事(併任)
2014	慶應義塾大学客員教授(併任)
2018	厚生労働省がん対策推進協議会会長(2022年まで)
2018	高松宮妃癌研究基金理事
2020	「内閣官房健康・医療戦略推進本部 ゲノム医療協議会構成員
2023	静岡県立静岡がんセンター名誉総長 兼 理事

受賞歴

2000	高松宮妃癌研究基金学術賞
2014	国際腫瘍学バイオマーカー学会 ABBOTT賞

静岡県は、ファルマバレープロジェクトの一環として、近隣12市町とともに「超高齢社会の理想郷づくり」を推進する。そのため「医療田園都市構想」が策定された。4～5世紀の陶淵明「桃花源記」以降、多くの理想郷が語られている。本構想では、現代の「超高齢社会の理想郷」として「自然・生活環境」、「文化・教育」、「都市機能」、「医療・福祉・介護」を重視し、これらを含む「スマート社会」の実現を目標としている。

講演6

技術が描く未来の自立した生活 ～自立のための3歩の住まい～

講師

中島 優子 (パナソニック(株)エレクトリックワークス社
マーケティング本部 アカウント営業部 公需営業推進部 主務)



経歴・研究活動等

2007.4	松下電工株式会社 入社 マーケティング本部 首都圏特機営業部 東京文化・商業施設営業所
2011.10	パナソニック電工株式会社 マーケティング本部 広域法人営業部 調光営業推進部
2012.4	パナソニック株式会社エコソリューションズ社 マーケティング本部 法人営業統括部 エンジニアリング事業推進部 総合企画グループ
2014.5	パナソニック株式会社エコソリューションズ社 マーケティング本部 法人営業統括部 開発営業部 公需営業推進部
2020.4	人生100年時代の住宅整備コンソーシアム 参画
2021.10	パナソニック株式会社エレクトリックワークス社 マーケティング本部 開発営業部 公需営業推進部 主務

コンソーシアムメンバーとして計画段階より参画させていただいたファルマバレープロジェクト内の「人生100年住宅整備プロジェクト」にて設置したコンセプトモデルルーム「自立のための3歩の住まい」をもとに、高齢者の自立と快適な暮らしを可能とする終の棲家の実現を目指した取り組みと、最新技術が描く未来検討を紹介する。

講演7

医療田園都市構想の実現に向けた三島市の取り組み

講師

豊岡 武士 (三島市長)



経歴・研究活動等

1966.3	日本獣医畜産大学(現 日本獣医生命科学大学)卒業
1966.4	静岡県職員
1996.4	静岡県緊急防災支援室長
1998.4	三島市企画調整部長
1999.4	静岡県議会議員(3期)
2004.5	静岡県議会文教警察委員会委員長
2008.5	静岡県議会企画空港委員会委員長
2010.12	三島市長(1期目)
2014.12	三島市長(2期目)
2018.12	三島市長(3期目)
2022.12	三島市長(現在4期目)
受賞歴	
2022.6	永年勤続功労表彰

三島市では、健康づくりに加え、生きがいやきずなづくり、産業振興を通じて、人もまちも健康で幸せにする主要施策「スマートウエルネスみしま」に、ウェルビーイングの考え方を導入し、更なる深化を目指している。また、医療田園都市構想にもある「ガーデンシティ」のコンセプトをいち早く取り入れるなかで、せせらぎ溢れ歴史を感じる街並みに花を加え、美しく品格のあるまちづくりを進めてきた。これらをはじめとする三島市の取り組みについてご紹介する。

